



**学社融合で取り組む地域教育と環境保全**

寄稿：米田博（正法寺川を考える会会長）

**【生涯学習の視点で学社融合・環境観察学習会を展開】**

キーワード：学社融合・学校支援・環境学習

**1. 要旨：学校との連携のはじまり**

平成9（1997）年3月18日、水辺環境の創出や保全・再生を図ることを目的に、町内中心部を流れる河川「正法寺川」の環境美化活動を行う「正法寺川を考える会」を13名のメンバー（構成：会社員・自営業者・主婦など）で発足、実践活動と学習を重ね、年度ごとに活動の輪を広げてきた。

発足9年目の平成17（2005）年度より、地元、藍住北小学校と連携、融合した環境観察学習会を開催、4年目をこのほど終えた。そこで、次に実践活動を紹介する。

**（1）学校支援のはじまり**

発足4年目の平成12（2000）年には、当会の活動も地域で評価を得るまでになってきた。折り返し、町内の藍住中学校と藍住北小学校が総合学習の時間に、環境問題をテーマに正法寺川の調査研究に取り組んでいた。

最初の学校支援のキッカケは、学校側からの依頼であった。総合学習での正法寺川の環境学習をさらに深めていくため、活動に取り組んでいる当会に支援をして欲しいとの内容で、私が環境学習ティーチャーとして教壇に立った。

**（2）学校支援の展開（藍住北小学校）**

平成13（2001）年2月6日、5年生90名ほどを対象に、ワークルールで、午後1時45分より2時30分までの45分間授業を講義説明で行った。

子どもたちも、川の状況や水質・生きものなどについて研究していたので、私は、川の歴史や移り変わり、地域住民と川の関り、水質の状態、生息する生きものや、毎月の清掃活動を通してわかった現状などのついて、パネルやパンフレット、資料を通して講義した。

その後、質疑応答の時間をとった。質問はとても多様な内容で、手をあげて元気に次々飛び出してきて、とても有意義な授業となった。最後に私から、当会が開催する環境観察会への参加や、毎月第二日曜日の早朝7時30分より行っている清掃活動の取り組みを説明した。自主的な活動だが「ボランティアをやってみようと思ったら、活動に参加してください。」と呼びかけた。

うれしいことに、早朝のボランティアに子どもたちが参加してくれるようになり、平成21（2009）年3月現在、会員80名（内、子ども会員35名）に達し、会の活動もジュニアからシニアまで異年齢の集団となった。

**（3）連携の輪・広がる**

学校との連携ネットワークは、その後、藍住中学校、鳴門第一中学校、藍住西小学校、県内活動団体へと広がり、活動の視察や講演・研修会の講師などの依頼を受けるまでになってきた。

一方で、会員は、県が開催する「環境ボランティアリーダー養成講座・1年間研修」などに積極的に参加し終了、環境指導者として成長している。

一人ひとりが学んだことを生かす「活動と学習」の意欲が次への豊かな活動に広がっている。そして、「住民活動まちづくり・基本はいつも生涯学習」がスタッフの合言葉になってきた。

**2. 学社融合の展開：年間を通しての取り組みへ（平成17（2005）年より）**

平成16（2004）年までの活動をふりかえり、年に数回の関りではなく「年間を通した支援の要望」が学校にあるのならと思いつき、「当会の身の丈で開れますのでご相談ください」と、当会の姿勢を学校に伝えた。その結果、学校より「是非、お願いをしたい」との要請に、年間を通して取り組むことになった。

**（1）活動づくり（検討会・企画会議・スタッフ会議）**

新年度がスタートすると学校と打合せに入り、4年生担任、校長先生といっしょに、学校の取り組みたいことを含め年間事業計画を聞く。子どもたちは調査、研究したいことを出し合う、そして、子どもたちの要望に沿って「年間活動計画案」を作成する。学校は学校としての「目標」「ねらい」を、当会は、当会としての協働活動目標を創る。

**（2）環境学習プログラム**

子どもたちが取り組む学習研究なので、活動の注意点として「安全第一……基本を守ろう！活動者の目線でお互い学び合おう！」「専門性を持ち、専門的になりすぎないこと」を目標に、活動内容は随時打合せをし、一人ひとりが主役の活動を目指している。

正法寺川を考える会の内部目標は「子どもたちとの、体験学習を通して、私たちも学び成長、進歩して行こう」がテーマとなっている。

**（3）体験型・ふるさとの川環境観察学習会**

今年度（平成20年度）は、4年生（3クラス91名）と、「川調べ」「野鳥」「水質」「魚」の4グループに分かれて実施、徳島県・国土交通省・日本野鳥の会徳島県支部・藍住町生活環境課・県立博物館（佐藤先生）はじめ、多くの方々のご支援をいただいた。また、鳴門教育大学伴教授ほか（大学院生15名）が学社融合の取り組みを研究、現地研修では活動に参画、協働活動となった。もちろん、学校の先生方と当会のスタッフ（10名）が活動を支えている。

**（4）学習発表会の開催**

本年（平成21年）2月25日、学校で大勢の方々の参観をいただき、すばらしい活動発表会となった。多くの成果があったが、何よりもの成果は、子どもたち自らが多くの「環境改善」の提案を発表したことだ。

